



温かいお気持ち、  
しっかり受け取りました！  
（博慈会記念総合病院の皆様）



マスクありがとう。  
（鹿浜こども園の園児より）

### 地域のために何ができるのか

3年生から6年生までの児童は、休校期間の自由課題として、「新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域に起きている問題」について目を向けました。「自分たちは町のために何ができるのか」を考え、「マスクチーム」「ポスターチーム」「医療従事者などの方への応援メッセージチーム」を始動しました。

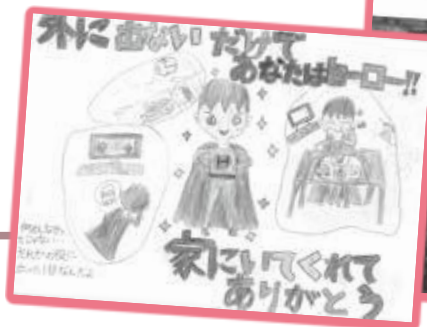
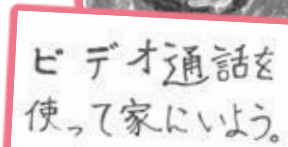
どのチームに参加するか自分で選択し、お渡しする相手のことを想いながら活動した結果、児童たちの優しさで溢れる手作りマスク・ポスター・応援メッセージが数多く出来上がりました。

メッセージチームの児童は、「皆のために働いてくれている人たちに、メッセージでお礼を伝えたい。勇気が出たり、心が癒されたりする言葉を選びました」とこの活動に取り組んだ理由を教えてくださいました。

### 互いに助け合う関係をめざして

手作りマスクとメッセージは、近隣の病院、保育園などに届けました。ポスターは、足立清掃事務所にお渡しし、そのポスターを掲示したごみ収集車が区内のごみ収集をしています。

現在は、「友だちがコロナウイルスに感染したら…」という課題で、身近に感染者が出た場合、どのように行動すべきかについて考えています。誹謗中傷をせず、互いに助け合う関係をめざして児童たちは日々活動しています。



## あだち夢のお菓子コンテスト

グランプリ受賞 千寿第八小学校（6年生）<sup>しぶいち</sup> 四分一 あかりさん

### 休校期間はとても貴重な時間でした

応募のきっかけは、休校期間中に母と取り組んだお菓子作り。「お菓子は作るのも食べるのも大好き」と笑顔で語る四分一さん。

「和菓子と洋菓子どちらも大好きなので、一度に食べてみたい」という思いを形にしました。アイデアの一番のこだわりは、見た目の可愛らしさ。また、甘すぎないように栗や小豆に加えて苺の酸味を追加するなど、味にも工夫をこらしました。

絵は、普段は部活動で忙しい姉に休校期間中に教わりました。絵を繰り返し練習することで自信を持つことができ、今回のコンテストへの挑戦につながったと家族への感謝の気持ち話を話してくれました。「休校期間は、友だちに会えず寂しかったですが、絵やお菓子作りなどにじっくり挑戦ができた貴重な時間でした」と振り返ります。

### 楽しむことが一番大切

「何か欠けている分、今できることは何かを考えながら過ごしています」という四分一さんの考え方は、大人も含めて皆が参考にすべきだと思います。現在の状況の中で挑戦できることに前向きに取り組んでいきたいと意欲十分です。

「将来は、AIの活用が進んでいく世界で、人にしかできないことをやり、周囲の人に感動を与えられる人になりたいです。何事も精一杯取り組むことで、結果はついてくると考えているので、未来への選択肢を自分自身の力で増やしていきます！」

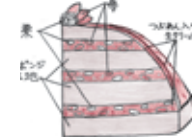


①応募前、姉にもらったスケッチブックで絵の練習



応募作品

②和菓子×洋菓子  
小豆と苺と栗の  
スポンジケーキ



③区内菓子店によって  
商品化されました



#### Information

すげいね！あだちのこどもたち 学校支援課 庶務係 ☎ 3880-5961